

ガレ・ガラスコレクション  
エミール・ガレとナンシー派

これくしょん・ぎやらりい 2F  
2011.2.5(中) ▶ 4.10(日)

エミール・ガレ(1846~1904年)は東フランス、ロレーヌ地方のナンシーに生まれ、生涯この地を拠点にガラスや陶器、家具などの分野において類い稀なる才能を開花させました。文学や哲学、音楽、植物学、鉱物学など幅広いジャンルに精通し、またジャポニスムや象徴主義、自然主義といった時代の潮流とも呼応しながら独自の表現を深めていった彼の芸術は、アール・ヌーヴオー期を代表するものとして、100年以上の時を経た今日もなお私たちを魅了しつづけています。

本展ではこうしたガレのガラス作品に焦点をあて、当館で所蔵するコレクションを一堂に展覧いたします。またガレと関わりのある同時代の作家、ドーム兄弟をはじめとするナンシー派の作家たちの作品もあわせてご紹介いたします。古都ナンシーに結実したガラス芸術の世界をおたのしみください。



草花に囲まれて仕事机に向かうガレ(1900年頃)。熱心な植物愛好家、園芸研究者としての姿がうかがわれます。



エミール・ガレ  
《シクラメン文碗》  
1898-1900年頃  
ガラスの象眼技法マルケトリーにより、葉や花びらがニュアンスゆたかに表現されています。



エミール・ガレ  
《ガラス工場風景文花瓶》  
1900年  
溶けたガラスを操る職人たち。オレンジ色と深い赤を重ね合わせ、熱気のこもるガラス工場の風景が表されています。  
※表紙作品



ドーム  
《野菊花文花瓶》  
1900-1910年頃  
ナンシー派の作家たちは、自然の観察に基づいた花の装飾を得意としました。



エミール・ガレ《鯉文花瓶》1878年頃  
淡青色のガラスを水の流れに見立て、大きな鯉を泳がせた一点。鯉のモチーフは『北斎漫画』から引用されています。

これくしょん・ぎやらりい The Collection Gallery

観覧料 一般 500(410)円 高大生 250(170)円  
( )内は10名以上の団体料金。

《無料になる方》

65歳以上、中学生以下、障害者手帳をお持ちの方など。  
高校生は土曜日、ならびに学校の活動で利用する場合は無料。

主催：北海道立近代美術館 協力：JR北海道